

平成26年度 学校・地域パートナーシップ事業担当者会議

- 1 日 時 平成26年4月23日(水) 10:00~12:00
- 2 場 所 奈良県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 県内各市町村教育委員会の本事業担当者(60名参加)
- 4 内 容
- | | |
|-------------|--|
| 9:30~10:00 | 受付 |
| 10:00~10:05 | 開会 |
| 10:05~10:35 | セミナー「地域と共にある学校づくり」
プレゼンテーション「学校コミュニティ」 |
| 10:35~11:10 | 行政説明
(1) 学校・地域パートナーシップ事業の概要
(2) 申請及び補助金執行に係る手続き
(3) 補助金執行に係る留意点等
(4) その他 |
| 11:10~11:20 | 質疑応答 |
| 11:20~12:00 | 情報交換 |



～情報交換から～

〈成果〉

- ・パートナーシップ事業を活用した「地域と共にある学校づくり」の必要性が共有できてきた。
- ・地域と学校をよく知る地域に住んでおられる校長先生のOBが、コーディネーターとして活躍していただいて、よかった。
- ・指導主事が、学校コミュニティ協議会に入っているのので、細かいところまでサポートしてくれて助かる。
- ・中心となる地域の方たちが、様々なニーズに応えた人材を集めてきてくれる。
- ・地元の大学・高校・動物園等との連携が図れている。
- ・今までの取組を踏襲しながら、特色ある取組を進めることができています。

〈課題〉

- ・仕組みをどのように定着させていくのか。
- ・中学校区を主にした小中連携をどのように展開していくのか。
- ・教職員の意識の高めるために、研修等をどのように進めるか。
- ・ボランティアの意識に差がある。この取組の目的を明確にして、どのようにWIN・WINの関係を築いていくかが大切である。
- ・子どもの課題をみつめ、その解決を図るという目的を明確に持ち、活動の更なる充実をめざせば、事業としての効果は得られると思う。その目的をすりあわせる場がコミュニティ協議会である。そして、すりあわせる手段が、熟議であると理解しているが、熟議に必要な時間をどう確保するかが、多忙な現場における課題である。



〈今後期待すること〉

- ・子どもの課題解決に向け、学校だけでは立ち行かなくなっている現状を解決するには、この事業の理念にあるように学校や保護者、地域が一体となって取り組まなくてはならない。そのためにも、管理職のリーダーシップに期待するところが大きく、この事業の理念を受け止め、教職員の理解・協力の度合いを高めていただきたい。
- ・子どもの課題を保護者・地域を巻き込んで解決する取組は、これまで同和教育が取り組んでいたことである。それを学校組織として取り組もうとするこの事業の理念を、各校の教職員に伝えていかなければならない。
- ・コーディネーターの人柄・力量が大事であるため、そのスキルアップを目的とした研修会をしていくことが大切である。
- ・取組の進捗状況には、各校において温度差がある。そのため、市教委事務局としても学校に入り、支援を厚くして、きめ細やかに対応していく必要がある。